

## 普及舎発行高等小学読本にみられる書簡文の特徴

### －『一般用』と『女子用』の比較から－

The Characteristics of Epistolary Materials in Koto Elementary School Tokuhon Readers published by Hukyusha Through a Comparison between Readers for Girls and Those for All Children

中嶋 真弓(Mayumi NAKASHIMA)

#### 1. はじめに

文部省は、高等小学校の国定読本の第二期と第三期において、男女共用の読本と女子用の読本を発行している。第二期は1911年度、第三期は1926年度使用開始で、それぞれ男女共用6冊、女子用4冊を発行している。しかし、それ以前にも男女共用の読本と女子用の読本はみられる。

そこで、本稿では、男女共用読本と女子用読本に採録された書簡文が、どのような役割を有しているかを明らかにすることを目的とする。対象とする読本は、普及舎編輯所編集の『国語読本高等小学校用全8冊』（1902.11.12 訂正4版）（以後、『一般用』と記す）と『国語読本高等小学校女子用全8冊』（1902.8.13 訂正3版）（以後、『女子用』と記す）とする。

井上敏夫(1981)は、『一般用』について次のように述べている。

近年の教科書が、平易を目的としてきたために平凡なものとなっしまい、学習意欲と教授効果とを失う傾向となった。本書はその弊を防ぐために、新しく有益な資料を集めるために格別にも意を注いでいる。特に歴史的人物の発掘とか、伝記の新体詩化(巻六「高田屋嘉兵衛」)など、今までのものには見られない新鮮さがうかがえる。各巻ごとの特別な課の末尾に、発展的な綴方の模範文を掲載している。綴方練習と読方復習とに役立てようとしたものである。(p.157)

普及舎は、金港堂や育英舎とともに多く使用された読本であることから対象とした。

採録書簡文の役割を明らかにするために、本稿では、内容と頭語・結語および文末文体の2観点から議論する。

なお、本稿では手紙文を引用以外は書簡文と記す。

#### 2. 普及舎読本採録書簡文の特徴

本章では、『一般用』と『女子用』にみられる書簡文の特徴を、①内容、②頭語・結語および文末文体の2観点から検討する。『一般用』と『女子用』に採録されている書簡文について〈表1〉〈表2〉に整理した。採録されている書簡文の課は、『一般用』が17課で全体の9.7%(17/176)、書簡文教材数は往信17通、返信10通で合計27通である。『女子用』では、書簡文は16課で9.1%(16/176)、書簡文教材数は、往信16通、返信14通で合計30通である。

〈表1〉『一般用』の書簡文一覧

1902.11.12発行 訂正4版

巻	課数・課名	文体	字体	内容項目	頭語(冒頭)	結語(末尾)
巻1	1-12 買い物を頼む	混合文体	楷書	依頼	拝啓、	御願ひ申し上げます候。
	1-17-1 遠足に友を誘ふ	候文体	楷書	誘引	謹啓、	御返事待ち上げ候。
	1-17-2 返事	候文体	楷書	誘引の返事(返)	拝復、	御誘ひ下され、ありがたく存じ候。
巻2	2-10-1 織物の注文	混合文体	楷書	注文	秋冷の候	右御注文申し上げます候。
	2-10-2 返事	候文体	楷書	注文の返事(返)	御手紙拝見いたし候。	かならず仕上げ申すべく候。
	2-14 受取書	候文体	楷書	受取	かねて注文致し置きたる書籍、	受取書御遣はし下されたく候。
巻3	3-12-1 留守をみまふ	候文体	楷書	留守を見舞	拝啓、	御みまひ申しあげ候。
	3-12-2 返事	候文体	楷書	見舞の返事	御手紙拝見いたし候。	御入来下されたく候。
	3-18-1 死去の知らせ	候文体	楷書	報知(死去)	祖母事、ながなが、病気の 處養生あひ叶はず、	お知らせ申しあげ候。
	3-18-2 返事	候文体	楷書	報知の返事(返)	承れば、御祖母様には、	まづは、取りあへず、御悔み 申し上げます候。
巻4	4-5 父の病気に弟を招く	候文体	楷書	報知	前便にて御知らせ申しあげし 通り、	まづは、取り急ぎ要事のみ 申しあげ候。
	4-14 開店祝いに友を招く	候文体	楷書	招待	時節から、寒気おひおひき びしくなりたるよーに	御入来下されたく待ち上げ候。
	4-20-1 書物を借る	候文体	楷書	貸借	拝啓、	御願ひ申し上げます候。
	4-20-2 返事	候文体	楷書	貸借の返事(返)	拝復、	御話し申しあげべく候
巻5	5-5-1 赤十字社へ入社する事を勧む	候文体	楷書	誘引	薄暑の候、ますます御清適の よし、大賀のことに存じ候。	この段御勧め申しあげ候。
	5-5-2 返事	候文体	楷書	誘引の返事(返)	仰せのごとく、おひおひ暑気 に向ひ候ふが、	この段御依頼申しあげ候。
	5-11-1 借入金返済の延期を頼む	候文体	楷書	依頼	拝啓、	御願ひ申しあげ候。
	5-11-2 返事	候文体	楷書	依頼の返事(返)	拝復、	まづは、御返事かくのごとくに候。
巻6	6-7 到着の知らせ	候文体	楷書	報知	拝啓、	まづは、御礼かたがた、大 略御報告申し上げます候
	6-15-1 家督相続の事を問ひ合はず	混合文体	楷書	問合	拝啓、	御願ひ申しあげ候
	6-15-2 返事	候文体	楷書	問合の返事	拝復、	まづは、御答までかくのごとくに候。
巻7	7-8-1 家・屋敷売買の相談	候文体	楷書	問合	拝啓、	以上。
	7-8-2 返事	候文体	楷書	問合の返事	芳翰拝誦致し候。	敬具。
	7-15-1 疾病を慰問す	候文体	楷書	見舞	拝啓、	匆々。
	7-15-2 返事	候文体	楷書	見舞の返事	御状、恭く拝見致し候。	拝復。(最後にある)
巻8	8-5 旅行さきよりの知らせ	混合文体	楷書	報知(旅借)	拝啓、	匆々。
	8-18 巴里留学の友に買物を頼む	候文体	楷書	依頼	拝啓、	時下せつかく御自愛のほど 折りあげ候。

書簡文の課は、往信のみの場合もあるが、多くが往信、返信で一つの課を構成している。しかし、往信と返信の掲載は、往信の前に課名が記載されているだけで返信は往信の続きに改行

〈表2〉『女子用』の書簡文一覧

1902.8.13発行 訂正3版

巻	課数・課名	文体	字体	内容項目	頭語(冒頭)	結語(末尾)
巻1	1-6-1 野菜を贈る	候文体	楷書	贈答	一筆申しあげ候	何とぞ、御笑納下されたく候。
	1-6-2 返事	候文体	楷書	贈答の返事	只今は、めづらしき御品、わざわざ御贈り下され、有りがたく存じ候。	まづは、御礼までかくのごとくに候
	1-18-1 納涼にさそふ	候文体	楷書	誘引	この頃の暑さは、いかにしのがせられ候ふか。	御伺ひ申しあげ候。
	1-18-2 返事	候文体	楷書	誘引の返事	さきほどは、夕涼みにおさそひ下され、有りがたく存じ候。	かならず、参上いたすべく候。
巻2	2-11-1 織物の注文	候文体	楷書	注文	この間、店へあまりしをり、	御遣し下されたく候。
	2-11-2 返事	候文体	楷書	注文の返事	先日はいろいろ御注文下され、ありがたく存じ候。	御願ひ申しあげ候。
	2-18-1 下女雇ひ入れの周旋をたのむ	候文体	楷書	依頼	手紙にて申しあげ候。	御返事下されたく候。
	2-18-2 返事	候文体	楷書	依頼の返事	御手紙拝見致し候。	御取り計らひ下されたく候。
巻3	3-4-1 製糸場の落成を祝ふ	候文体	楷書	慶賀	昨年御起工の製糸場、いよいよ、御落成のよし、	御笑納下されたく候
	3-4-2 返事	候文体	楷書	慶賀の返事	御書面拝見仕り候。	まづは、御礼かたがた、かくのごとくに候。
	3-19-1 留守を見まふ	候文体	楷書	留守を見訪	御兄上様、先頃、官命によりて、英国へ御旅立のよし、	さし上げ候。
	3-19-2 返事	候文体	楷書	見舞の返事	留守御見舞として珍らしき御菓子御恵みに預り、	まづは御礼申しのべ候。
巻4	4-7-1 祭礼に人を招く	候文体	楷書	招待	本月五日は、村社天満宮の祭礼に候。	(まづは御案内まで)匆々。
	4-7-2 返事	候文体	楷書	招待の返事	御村社天満宮は、社殿境内とも、まことに御りっぱのよし承り居り、	拝復。(末尾にある)
	4-16-1 作文書の返済を促す	候文体	楷書	貸借	手紙をもって申しあげ候。	何とぞ、悪しからず思しめし下されたく候。
	4-16-2 返事	候文体	楷書	貸借の返事	御手紙拝見いたし候。	よろづ御礼申しあぐべく候。
巻5	5-9-1 赤十字社へ入社する事を勧む	候文体	楷書	誘引	薄暑の候、ますます御清適のよし、大賀のことに存じ候。	この段御勧め申しあげ候。
	5-9-2 返事	候文体	楷書	誘引の返事(別)	仰せのごとく、おひおひ、冷気に向ひ候ふが、	この段御依頼申しあげ候。
	5-16-1 安産を祝ふ	候文体	楷書	慶賀	御姉上様には、昨夜御安産、	取りあへず祝詞申しのべ候。
	5-16-2 返事	候文体	楷書	慶賀の返事	御手紙拝見致し候。	まづは、御礼までかくのごとくに候。
巻6	6-9-1 立替へられたる金子を返す	候文体	楷書	貸借	先日は、久しぶりにて、御伴致し、まことに楽しく遊びかし、	御礼申しのぶべく候。
	6-9-2 返事	候文体	楷書	貸借の返事	仰せのごとく、先日は、御心易く御同行を願ひ、	(まづは、御返事まで、)匆々
	6-20 人を紹介す	候文体	楷書	紹介	日々の用事に追はれ、とかく、御無沙汰のみいたし、	御面会下されたく願ひ上げ候。
巻7	7-6-1 在營の兄の安否を訪ふ	混合文体	楷書	報知	一筆申し上げ候。	御身大切に御勤めなさるべく候。
	7-6-2 返事	候文体	楷書	報知の返事	御書状ありがたく拝見致し候。	はがきにて御答申し上げ候。
	7-20-1 下女雇入れをたのむ	候文体	楷書	依頼	拝呈	御相談致すべく候。
	7-20-2 返事	候文体	楷書	依頼の返事	御申し聞けの子守女一名、心当りのものこれあり候。	その上にて御決定下さるべく候。
巻8	8-2 旅行先よりの知らせ	混合文体	楷書	報知(旅借)	拝啓	まづは、御報知までかくのごとくに候。
	8-12-1 新年を祝ふ	候文体	楷書	慶賀	新年のおんよろこびめでたく存じ候。	まづは、年始の御祝ひ申しのべ候。
	8-12-2 返事	候文体	楷書	慶賀の返事	年始の御祝ひとして、はやばや、御手紙下され、うれしく拝見いたし候。	なほ、本年も旧に倍し、御愛願のほど願ひあげ候。

され「返事」等の課名や題目は付けられないまま続けて書かれている。また、往信、返信ともに宛名、差出人、書いた日付け等の記載はない。なお、〈表1〉〈表2〉に記した返事とある課名は、稿者が付したものである。

## 2.1. 内容の特徴

内容項目	『一般用』件数	割合	『女子用』件数	割合
報知	3	11.1%	1	3.3%
報知(旅費)	1	3.7%	1	3.3%
依頼	3	11.1%	2	6.7%
問合	2	7.4%		
見舞	2	7.4%	1	3.3%
誘引	2	7.4%	2	6.7%
受取	1	3.7%		
招待	1	3.7%	1	3.3%
貸借	1	3.7%	2	6.7%
注文	1	3.7%	1	3.3%
慶賀			3	10.0%
紹介			1	3.3%
贈答			1	3.3%
見舞の返事	2	7.4%	1	3.3%
問合の返事	2	7.4%		
誘引の返事	2	7.4%	2	6.7%
依頼の返事	1	3.7%	2	6.7%
貸借の返事	1	3.7%	2	6.7%
注文の返事	1	3.7%	1	3.3%
報知の返事	1	3.7%	1	3.3%
慶賀の返事			3	10.0%
招待の返事			1	3.3%
贈答の返事			1	3.3%
書簡合計	27	100%	30	100%

\*小数点以下第2位を四捨五入しているために、必ずしも100%にならない。

〈表1〉〈表2〉に記した内容項目を〈表3〉に整理した。内容項目は、稿者が、書簡文の内容から項目を設定し分類したものである。

『一般用』で数値が高いものが、報知と依頼である。その内訳をみると、3-18-1「死去の知らせ」(3-18-1は、巻3の18課の1通目の意味、以後同様)、4-5「父の病気に弟を招く」、6-7「到着の知らせ」の3通である。2通が死亡、病気の知らせで、1通が到着の知らせである。これらは、日常生活に必要な書簡として取り上げられているといえる。『女子用』の報知は1通で、7-6-1「在営の兄の安否を訪ふ」で、在営の兄に、家族の様子を知らせる内容である。『一般用』にはみられない戦争に関わる内容が『女子用』にみられる。依頼の内訳をみると、『一般用』では、1-12「買ひ物を頼む」、5-11-1「借入金返済の延期を頼む」、8-18「巴里留学の友に買物を頼む」の3通である。『女子用』では、2-18-1「下女雇ひ入れの周旋を頼む」、7-20-1「下女雇入れをたのむ」の

2通である。『一般用』では、買い物の依頼が2通あり、1通が博覧会で八圓内外の久留米絨氈端を買ってほしいというもので、もう1通が、巴里のゴブラン織りの購入を依頼するものである。『女子用』は、2通とも下女の雇用に関するもので、1通目が小間遣いとして、2通目は子守女を雇いたいというものである。『一般用』にある買い物については、児童においても日常生活の中にあることであろうが、借入金の返済や下女の雇用においては、児童の生活と密着したものとは言い難い。しかし、これらが採録されているということは、当時このような内容のものを読んで書けることが求められていたということである。なお、「買ひ物」と「買物」、「頼む」と「たのむ」等の表記において、『一般用』と『女子用』および同一読本内においても統一がなされていないことが看取できる。また、付記するが、「ー(長音符号)」や促音などの表記が両読本にみられる。

『一般用』に採録され『女子用』に採録されていない書簡文として、問合がある。一般用では、2通採録されておりその内訳は、6-15-1「家督相続の事を問ひ合はす」と7-8-1「家・屋敷売買の相談」である。この2通においても、児童の生活に密着したものとはいえない。一方『女子用』に採録され『一般用』にない書簡文として慶賀がある。その内訳をみると、3-4-1「製糸場の落成を祝ふ」、5-16-1「安産を祝ふ」、8-12-1「新年を祝ふ」の3通である。前述した報知

の項目で『一般用』が死亡や病気について知らせる内容であったのに対し、『女子用』には、死亡や病気関係の内容はなく、お祝いを伝えるものが採られている。

『一般用』と『女子用』には、〈表 1〉〈表 2〉からも分かるように同一の課名が 4 件みられる。これらの内容をみると、次のようである。なお、説明の後の(数字)は、何文かを記したものである。

『一般用』

・ 2-10-1 織物の註文

裕用の縞物壹端を 20 日までに織ってほしいと註文する書簡。染糸は、貳拾六なので用意したが、不足なら申し付けてほしいとある。(3 文)

・ 2-10-2 返事

期限までに仕上げることを伝える書簡。(4 文)

『女子用』

・ 2-11-1 織物の註文

結城紬貳端を註文する書簡。少し高くても良い品を見計らってほしいとある。(2 文)

・ 2-11-2 返事

少し高くなるが上等の品四、五端持たせて御目にかけるので購入してほしいと伝える書簡。(3 文)

『一般用』

・ 3-12-1 留守をみまふ

御父上様が旅行のため、寂しくしていないかを見舞う書簡。近日中に伺う旨書かれている。(3 文)

・ 3-12-2 返事

見舞の手紙の御礼とともに叔母が来ているので、寂しくはないと書かれている。そして、遊びがてら来てくださいともある。(4 文)

『女子用』

・ 3-19-1 留守を見まふ

御兄上様が官命により英国へ旅立たれたために、寂しくないかを見舞う書簡。こちらには、弟もいるので、いつでも用があれば言ってほしいとある。また、菓子一折見舞いとして差上げるともある。(3 文)

・ 3-19-2 返事

御礼とともに、兄から音信があり無事に倫敦についたとのことで安心していることが書かれている。(3 文)

『一般用』 \* 『女子用』と同一教材。

・ 5-5-1 赤十字社へ入社する事を勧む(3 文)

・ 5-5-2 返事(4 文)

『女子用』 \* 『一般用』と同一教材。

- ・ 5-9-1 赤十字社へ入社する事を勧む(3文)
- ・ 5-9-2 返事(4文)

#### 『一般用』

- ・ 8-5 旅行さきよりの知らせ

兄との旅で訪れた京都、静岡の様子や、これから訪れる江の島、鎌倉について書かれている。(9文)

#### 『女子用』

- ・ 8-2 旅行先よりの知らせ

母親との旅で訪れた京都、静岡の様子や、これから訪れる江の島、鎌倉について書かれている。(9文)

上記に記したように、4件の書簡文の内3件は同一課名ではあるが、内容は違っている。しかし、「旅行さきよりの知らせ」は「旅行さき」と「旅行先」との表記の違いや『一般用』が兄との旅行で『女子用』が母親との旅行という同行者の違いはあるが、内容的にはほぼ同様である。同一あるいはそれぞれの書簡文の内容から、男女に特化した内容や教訓的なものではなく、性差の違いはみられない。また、文章の長さにも差異はない。つまり、内容的に男女に偏った採録とはいえない。さらに、同一教材の「赤十字社へ入社する事を勧む」「返事」では、読点の有無と『一般用』が「暑気」とあるのに対して『女子用』は「冷氣」となっている点と、『一般用』に「赤十字社へ入社的事勧誘方を」とあるが、『女子用』には「事」がない点の2点以外違いはない。つまり、文体や内容の違いはみられない。これらのことから、採録書簡文の内容の傾向として、男女の性差に特化した採録はなされていないことが分かる。

以上のことから、『一般用』と『女子用』に採録されている書簡文は、男子、女子に偏った内容ではなく、日常生活に必要と考えられる内容を網羅しているといえる。しかし、内容においては、両読本とも児童の日常生活に密着した内容とは言い難いことは前述した。このような書簡文が高等小学読本に採録されているということは、当時これらの書簡文を読んで書くことが児童に求められ、家族の代筆を行う場合に生かされたとも考えられる。そのような意味においては、児童の生活には密着したものでなくとも社会一般の日常生活に必要とされた内容であったといえる。

## 2.2. 頭語・結語および文末文体の特徴

### 2.2.1 頭語・結語の特徴

『一般用』と『女子用』の頭語を〈表4〉〈表5〉に整理した。なお、表にある種類は茗荷円(2017)を参考にした。「頭語なし」は、稿者によるものである。

まず、往信の頭語をみると、『一般用』では、「漢語系」が64.7%と高く、それ以外は「頭語なし」である。『女子用』では、「筆系」「文系」「漢語系」の頭語が各2通ずつ採録されているが、それ以外は、「頭語なし」である。返信では、『一般用』は「漢語系」が多く、続いて「拝見系」がみられる。また、「頭語なし」も20.0%ある。『女子用』では、「拝見系」と「頭語なし」の書簡文が採録され、往信にみられた「漢語系」は一通もない。また、「頭語なし」の書簡

文も 57.1%と高い。頭語について往信・返信両面からみると、『一般用』では、「漢語系」が多く使われ、返信では、「拝見系」もみられる。一方『女子用』では「漢語系」が少なく、「筆系」

〈表4〉頭語の種類(往信)							
頭語	種類	『一般用』			『女子用』		
		書簡数	頭語別割合	種類別割合	書簡数	頭語別割合	種類別割合
一筆申しあげ候	筆系				1	6.3%	12.5%
一筆申上げ候					1	6.3%	
手紙にて申しあげ候	文系				1	6.3%	12.5%
中紙をもって申しあげ候					1	6.3%	
拝啓	漢語系	10	58.8%	64.7%	1	6.3%	12.5%
謹啓		1	5.9%				
拝呈						1	
時候の挨拶	頭語なし	3	17.6%	35.3%	2	12.5%	62.5%
本文		3	17.6%		6	37.5%	
お礼					1	6.3%	
忙しい状況					1	6.3%	
合計		17	100%	100%	16	100%	100%

  

〈表5〉頭語の種類(返信)							
頭語	種類	『一般用』			『女子用』		
		書簡数	頭語別割合	種類別割合	書簡数	頭語別割合	種類別割合
御手紙拝見いたし候	拝見系	2	20.0%	30.0%	1	7.1%	42.9%
御手紙拝見致し候					2	14.3%	
御手紙下さり、 ふたへく拝見いたし候					1	7.1%	
御状ありがたく 拝見致し候					1	7.1%	
御書面拝見仕り候					1	7.1%	
御状、多く拝見致し候		1	10.0%				
拝復	漢語系	4	40.0%	40.0%			
芳翰拝讀致し候	その他	1	10.0%	10.0%			
時候の挨拶	頭語なし	1	10.0%	20.0%	1	7.1%	57.1%
本文		1	10.0%		7	50.0%	
合計		10	100%	100%	14	100%	100%

・茗荷円(2017)では、「来信」とあるが、本稿では「返信」と記す。

「文系」「拝見系」といった和文の表現が採られているといえる。また、『一般用』『女子用』両者において、「頭語なし」も多く採られていることから、書簡文において頭語が必須ではなかったことが分かる。茗荷円(2017)は、女性書簡文集、女流作家の書簡文、女流作家以外の女性の書簡文、雑誌の懸賞文に寄せられた書簡文の四種類の書簡文を明治中期、明治後期、大正期、昭和前期、昭和中期の五期にわたって文末文体や頭語・結語等の観点から分析している。そして、その中で茗荷円(2017)は、「頭語の有無については、全時期、『必須』ではない。省略しても良い度合いは、年を経るごとに強まっている傾向にある。頭語の種類については、大正期頃までは漢語表記の例がなく、とりわけ明治中期ではふさわしくないとされていた」(p. 148)として

いる。『一般用』『女子用』に「頭語なし」が多いことや『女子用』に「漢語系」が少ない傾向も社会一般的な状況によるものといえるが、『一般用』より採録の割合は少ないものの、「漢語系」が採録されていることは興味深い。

次に、結語について〈表6〉に整理した。茗荷円(2017)は、結語の種類として「かしこ系」「漢語系」「さよなら系」「御機嫌系」「では系」「その他」の6種類に分類している。そして、「規範において、結語の有無に関しては、昭和前記以降、これまでのように『必ず書くべき』との言及(明治中期、明治後期、大正期において規範では『必須』となっていた引用者補)はなされていない。種類に関しては、全時期『かしこ』系が中心である。男性が用いるとされてきた「漢語系」は、昭和前期から、例に挙げられるようになった」(p. 201)と述べている。茗荷円(2017)の種類に当てはめると、『一般用』『女子用』ともに、「漢語系」と「頭語なし」ということになる。結語の省略や「かしこ」のある書簡が採録されていないことなどから、一般社会の傾向と読本の傾向に差異があることが看取できる。そして、〈表6〉に示した結語が多様なことから、両読本において、書簡文の形式面より、場に応じた書き方を重視したものと考えられる。そのために、色々な状況を想定し、それに応じたいくつもの末尾の表現が示されていると考えられる。そのような点において、両読本が、書簡文の範文のための手本にもなっているといえる。それは、「頭語なし」において「御～候」「まづは～候」「～かくのごとくに候」「～べく

〈表6〉結語の種類												
結語	種類	『一般用』			『女子用』							
		書簡数	結語別割合	種類別割合	書簡数	結語別割合	種類別割合					
以上	漢語系	1	18.5%	18.5%		10.0%	10.0%					
敬具		1										
拝復(末尾)		1										
匆匆		2										
御伺ひ申しあげ候	頭語なし(御(お)~候)		59.3%	81.5%	1	56.7%	90.0%					
御答申し上げ候		1										
御誘日下され、ありがたく存じ候		1										
御遣はし下されたく候		1										
御遣し下されたく候												
御取り計らひ下されたく候												
御願ひ申しあげ候		2										
御願ひ申し上げ候		1										
御願申し上げ候		1										
御話し申しあげべく候		1										
御返事下されたく候												
御返事待ち上げ候		1										
御礼申しあげべく候												
御礼申しのぶべく候												
御笑納下されたく候												
御身大切に御勤めなさるべく候												
御みまひ申しあげ候		1										
御愛願のほど願ひあげ候												
御依頼申しあげ候		1										
御決定下さるべく候												
御自愛のほど祈りあげ候		1										
御勤め申しあげ候		1										
御相談致すべく候												
御註文申し上げ候		1										
御入来下されたく候		1										
御入来下されたく待ち上げ候		1										
御面会下されたく願ひ上げ候												
お知らせ申しあげ候		1										
まづは、御答までかくのごとくに候		頭語なし(まづは、~候)			1			18.5%			20.0%	
まづは、御返事かくのごとくに候					1							
まづは、御礼かたがた、かくのごとくに候												
まづは、御礼かたがた、大略御報告申し上げ候	1											
まづは、御礼までかくのごとくに候												
まづは、御報知までかくのごとくに候												
まづは、取りあはず、御悔み申し上げ候	1											
まづは、取り急ぎ要事のみ申しあげ候	1											
まづは、年始の御祝ひ申しのべ候												
まづは御礼申しのべ候												
かならず、参上いたすべく候	頭語なし(かならず~候)		3.7%		1	3.3%						
かならず仕上げ申すべく候		1										
さし上げ候	頭語なし(その他)		0.0%		1	10.0%						
取りあはず祝詞申しのべ候		1										
何とぞ、悪しからず思しめし下されたく候					1							
合計		27	100%	100%	30	100%	0%					



候」といった表現が多く使われており、ある程度型にあった書き振りが提示されていることから、範文としての役割を有しているといえる。

### 2.2.2 文末文体の特徴

文体をみるために、本稿では文末文体に着目した。文末文体に着目した先行研究には、北澤尚(1999)、茗荷円(2017)などがある。本稿では先行研究を踏まえながら、候文体(文末が「候」で終わる)、文語文体(文末が文語で終わる)、口語文体(文末が口語で終わる)、混合文体(一通の書簡文の中で、文末が統一しておらず混在しているもの)の四種類で調査し、〈表7〉に整理した。

文体	『一般用』		『女子用』	
	書簡数	割合	書簡数	割合
口語文体	0	0.0%	0	0.0%
文語文体	0	0.0%	0	0.0%
候文体	23	85.2%	28	93.3%
混合文体	4	14.8%	2	6.7%
合計	27	100.0%	30	100.0%

文末文体	1の12	1の13	1の15	2の10	2の11	2の14	3の10	3の11	3の12	4の5	4の14	4の15	4の16	5の5	5の6	5の7	6の7	6の8	7の8	7の9	8の5	8の18	合計	%					
願ひ上げ候																			1				1	0.9%					
願ひあげ候																						1	1	0.9%					
申し上げ候	1		1				1		1							1				1			6	5.3%					
申しあげ候					2		1		1	1			1	1	1		1						9	7.9%					
																							0	0.0%					
致し候							1									1		1		1	1	1	6	5.3%					
いたし候					1		1						1	1									5	4.4%					
入り候								1												1			2	1.8%					
存じ候			1		2		1		1					1	1		1	1	1	1	1	1	13	11.4%					
ぞんじ候																							0	0.0%					
奉り候																	1						1	0.9%					
承り候																			1				1	0.9%					
仕り候																							0	0.0%					
申し候									1														1	0.9%					
居り候																	1		1		1		3	2.6%					
をり候			1			1																1	1	4	3.5%				
																							0	0.0%					
たく候	1		1	1		1		1					1	1			2		1	1		1	2	15	13.2%				
べく候					1					1				2					1	1		1	1	8	7.0%				
																							0	0.0%					
候			3		1			1		1	1						2	4	2	4		1	5	4	29	25.4%			
候はずや																							0	0.0%					
候ふか											1							1			1		3	2.6%					
候ふや																			1				1	0.9%					
候へば																						1	1	0.9%					
																							0	0.0%					
致すべきか																	1						1	0.9%					
いふもさらなり																						1	1	0.9%					
下さるべし					1																		1	0.9%					
下されたし	1																						1	0.9%					
さりながら																							0	0.0%					
合計	3	3	3	4	3	2	3	4	2	4	4	3	1	3	3	4	1	3	9	6	6	5	5	5	5	9	11	114	100.0%

『一般用』『女子用』両読本とも、大部分が候文体で、混合文体においてもいずれの書簡文も一文のみが候文体以外の文末文体で、その他の文体は候文体である。つまり、『一般用』『女子

用』ともにほとんど候文体である。口語文体は、一通もない。文末文体では、『一般用』と『女子用』に差異はない。

〈表9〉『女子用』の文末文体																				合計	%										
文末文体																															
願ひ上げ候																					1	1	2	1.8%							
願ひあげ候																						1	1	1.8%							
申し上げ候																							1	2.7%							
申しあげ候			1			1	1	1			1	1	1	1										10.6%							
																							0	0.0%							
致し候														1	1								1	4	3.5%						
いたし候																							1	2	1.8%						
入り候															1								1	2	1.8%						
存じ候			1			1	1			1	1	1	1										1	19	16.8%						
ぞんじ候																							1	1	0.9%						
奉り候																								0	0.0%						
承り候																								0	0.0%						
仕り候																							1	1	0.9%						
申し候											1													1	0.9%						
居り候																								2	1.8%						
をり候																								0	0.0%						
																								0	0.0%						
たく候	1		2		2		1	2	1	1	1	1		2	1	1	1							23	20.4%						
べく候			1												1									13	11.5%						
																								0	0.0%						
候	1	1					1			1	1		1		1	1	2							22	19.5%						
候はずや														1										1	0.9%						
候ふか				1																				1	0.9%						
候ふや																								0	0.0%						
候へば																								0	0.0%						
																								0	0.0%						
致すべきか																								0	0.0%						
いふもさらなり																								1	0.9%						
下さるべし																								0	0.0%						
下されたし																								0	0.0%						
さりながら																								1	0.9%						
合計	2	3	4	2	2	3	3	3	2	3	3	3	3	3	4	4	3	4	4	5	3	4	6	3	4	5	9	7	4	113	100.0%

では、どのような文末文体があるかを、〈表8〉〈表9〉に整理した。5回以上使われている文末文体は、『一般用』では、候(25.4%)、たく候(13.2%)、存じ候(11.4%)、申しあげ候(7.9%)、べく候(7.0%)、致し候と申し上げ候(5.3%)、いたし候(4.4%)である。そして、『女子用』では、たく候(20.4%)、候(19.5%)、存じ候(16.8%)、べく候(11.5%)、申しあげ候(10.6%)である。文末文体をみると『一般用』『女子用』に特化して使われている文末文体もなく、両読本において偏った表現はみられない。しかし、前述したように両読本ともに、漢字か平仮名表記かの統一性はみられない。また、付記するが、『一般用』においては、4-20-1と5-11-1が、1文での往信となっている。両書簡とも7.5行で読本の片面1頁の分量である。候文体であることから、文章が長くなっていることが分かる。

### 3. 考察

本稿では、普及舎編集の高等小学校用読本の『一般用』『女子用』を比較対照することによって、それぞれの読本における書簡文教材の役割を、内容と頭語・結語および文末文体の2観点

から議論した。その結果、次のことが明らかになった。

- ・『一般用』『女子用』に採録された書簡文の内容は、両読本において教訓的な内容のものではなく、日常生活における一般的な書簡文が書けるための教材として位置づけられている。その意味において、両読本において男女の性差はないといえる。そして、読む書簡文というよりは、書くための範文としての役割を有しているといえる。
- ・採録書簡文の内容は、児童にとって興味あるとは言い難いものも含まれている。しかし、そのような書簡文教材が採録されているということは当時の社会において求められる書簡文であり、そのような書簡文を書く力が求められていたといえる。見方を変えるならば、書簡文教材の教授においては、児童の興味を引き出すといった教授ではなく、日常の必然に迫られて書簡を書く教授がなされていたとも考えられる。
- ・頭語、結語の特徴から、『女子用』に比べ『一般用』の「漢語系」が頭語、結語両方において多く使われていることが分かった。これは、社会一般の傾向と同様の採録がなされているといえる。その一方で、『女子用』にも数値的には低い「漢語系」が使われていることや女性の結語として最も一般的な「かしこ」が使われていないことなどからも、男女の違いをなくすための工夫とも考えられると同時に、結語や末尾において自由な表現が認められているとも考えられる。

本稿では、普及舎編集の『一般用』『女子用』を比較したが、同一時代の他の高等小学読本の男女の読本の比較をしたり、その傾向の推移を議論したりする必要があると考えている。

#### 引用・参考文献

井上敏夫(1981)『国語教育史資料第二巻教科書史』東京法令出版

北澤尚(1999)「明治時代の女学生の書簡の文体」東京学芸大学紀要出版委員会『東京学芸大学紀要第2部人文科学』50, 269-281.

中村紀久二(1991)『復刻 国定高等小学読本 解説』大空社

滑川道夫(1977)『日本作文綴方教育史1 明治編』国土社

野地潤家(1998)『野地潤家著作選集第8巻 中等作文教育史研究Ⅰ』明治図書

野地潤家(1998)『野地潤家著作選集第9巻 中等作文教育史研究Ⅱ』明治図書

茗荷円(2017)『近代日本女性書簡文の表現史研究』おうふう